

2026年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

博士課程前期課程  
〈正規学生(一般・推薦)〉  
〈特別学生(社会人)〉  
〈特別学生(外国人留学生)〉

心理学領域

試験科目  
専門外国語科目

受験番号 番

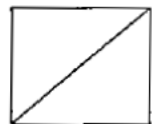
解答記入不可  
↑

問Ⅰ. あなたの卒業論文研究(あるいはそれに相当する研究)の概要を英語200 words程度で述べなさい。

問Ⅱ. 次の6つの論文の要約(Abstract)から3つを選び、それぞれの論文タイトルを日本語に訳した上で、内容を解答用紙4行程度に日本語でまとめなさい。(論文は次頁にもあります)

出典: Burns, R. A., & Crisp, D. A. (in press). *Journal of Positive Psychology*

出典: Heller, M. A., & Adams, N. (2024). *Perception*, 53, 812-816.



2 枚中  
1

出典: Zhang, Y. et al. (2025). *Current Psychology*, 44, 10468-10481.

2026年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

博士課程前期課程  
<正規学生(一般・推薦)>  
<特別学生(社会人)>  
<特別学生(外国人留学生)>

心理科学領域

試験科目  
専門外国語科目

受験番号

番

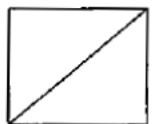
解答記入不可

↑

出典：Attard-Johnson, J. et al. (2025). *Perception*, 54, 628–636.

出典：Adams, R. B., Jr. et al. (2010). *Journal of Cognitive Neuroscience*, 22, 97–108.

出典：Jonason, P. K. et al. (2020). *Journal of Personality*, 88, 1252–1267.



2 枚中

2

2026年度 文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

博士課程前期課程 <正規学生(一般)> <特別学生(社会人)> <特別学生(外国人留学生)>	心理科学領域	試験科目 専門基礎科目	受験番号	番
---	--------	----------------	------	---

解答記入不可  
↑

I. 心理学実験に関する以下の文章を読み、次の①～④の間に答えなさい。

対人的な緊張は、自分の行動を観察する他者の多さによって異なるという仮説を検証する実験を行った。まず、待合室での緊張の程度をベースラインとして1回目の測定を行った。その後、スピーチをすると教示した上で、観察する他者の前に立ってスピーチをする直前に、2回目の緊張の程度を測定した。

本実験は3群構成で、「観察する他者無し」群、「観察する他者1人」群、「観察する他者10人」群を設定し、総被験者27名を各群に9名ずつ割り当てた。1回目と2回目の緊張の程度の差分を従属変数、観察する他者数(3群)を独立変数とした被験者間実験計画による一要因分散分析を行った。各群の平均値( $\bar{X}_j$ )と標準偏差( $s_j$ )は以下の通りであった。

- 「観察する他者無し」群:  $\bar{X}_1 = 2, s_1 = 3$
- 「観察する他者1人」群:  $\bar{X}_2 = 5, s_2 = 3$
- 「観察する他者10名」群:  $\bar{X}_3 = 5, s_3 = 3$

① 全被験者の総平均 ( $\bar{X}_{total}$ )、各  $SS$ ,  $df$ ,  $MS$  の値を求め、 $F$  の値を算出せよ。各平方和 ( $SS$ )、自由度 ( $df$ ) は以下のとおりである。各平均平方 ( $MS$ ) はこれらを利用して求めることができる。なお小数第二位を四捨五入すること。

- 群間平方和  $SS_B = \sum_{j=1}^k n_j (\bar{X}_j - \bar{X}_{total})^2$                       群間自由度  $df_B = k - 1$
- 群内平方和  $SS_W = \sum_{j=1}^k (n_j - 1) s_j^2$                               群内自由度  $df_W = N - k$
- 総平方和  $SS_T = SS_B + SS_W$                                       総自由度  $df_T = N - 1$

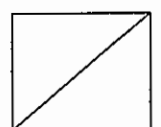
※ $n$  は各群の被験者数、 $s$  は各群の標準偏差である。 $k$  は群の数、 $N$  は総被験者数である。なお、一般的な有意水準(.05) のとき、本研究の自由度( $df_B, df_W$ )における  $F$  値の臨界値は 3.40 である

- ② 効果量  $\eta^2$  を算出せよ。  $\eta^2 = \frac{SS_B}{SS_T}$  とする。なお小数第二位を四捨五入すること。
- ③ 上記①の結果に基づいて観察する他者の要因の効果を判断し、②の結果も踏まえ、本実験の結果を総合的に考察せよ。
- ④ 上記の研究デザインには、どのような問題点があるだろうか。考えられる問題点を挙げ、それらの解決策を述べよ。

II. あなたの大学院での研究テーマを日本語で書き、それを英訳しなさい。

III. 心理学に関連する次の用語・人名から10語を選択し、簡潔かつ的確に説明しなさい。

- |                               |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| a. 共分散                        | k. 行動アセスメント            |
| b. 心理物理学                      | l. 顔面フィードバック説          |
| c. 認知革命                       | m. 絵画欲求不満テスト           |
| d. 自律神経系                      | n. IQ                  |
| e. 条件づけ                       | o. TAT                 |
| f. 変化の見落とし (change blindness) | p. Pearson, K.         |
| g. 節約法                        | q. Fantz, R. L.        |
| h. 生産的思考                      | r. Helmholtz, H. L. F. |
| i. 社会的手抜き                     | s. McCrae, R. R.       |
| j. 内言                         | t. Rorschach, H.       |



1 枚中

1

2026年度

文学研究科入学試験問題 (解答別紙・直接解答)

博士課程前期課程  
〈正規学生(一般)〉

心理科学領域

試験科目  
専門科目

受験番号 番

解答記入不可

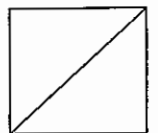


I. 心理学の人文的側面と自然科学的側面について論じなさい。

II. 「公認心理師」受験資格の取得を目指す人はAを、それ以外の人はBについて解答しなさい。

A. 公認心理師の実習として病院の緩和ケアチームに参加することを想定し、文化・年齢・疾患特性に関する留意点を、これまでに履修した専門科目5科目(基礎心理学領域〔例:生理心理学・学習心理学・認知心理学・神経心理学・社会心理学など〕を2科目以上含む)と関連づけて論述せよ。

B. これまでの記憶研究の歴史において、もっともインパクトのあったと考える研究について、そう考える理由も含めて述べよ。



$\frac{1}{1}$  枚中

1